

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	フィールドワーカーの知と知をつなぐ Fieldnet の取り組みと地理情報システム
Title(English)	Fieldnet and GIS: Sharing academic information for field scientists
著者(和文)	椎野若菜, 石森大知, 大西健夫, 梶丸 岳, 小西公大, 駒澤大佐, 近藤康久, 佐藤靖明, 澤柿教伸, 庄山紀久子, 福井幸太郎, 的場澄人, 古澤拓郎
Authors(English)	Wakana Shiino, Daichi Ishimori, Takeo Onishi, Gaku Kajimaru, Kodai Konishi, Osuke Komazawa, Yasuhisa Kondo, Yasuaki Sato, Takanobu Sawagaki, Kikuko Shoyama, Kotaro Fukui, Sumito Matoba, Takuro Furusawa
出典(和文)	地理情報システム学会講演論文集, Vol. 20, ,
Citation(English)	, Vol. 20, ,
発行日 / Pub. date	2011, 10

フィールドワーカーの知と知をつなぐ Fieldnet の取り組みと地理情報システム
椎野若菜, 石森大知, 大西健夫, 梶丸 岳, 小西公大, 駒澤大佐, 近藤康久,
佐藤靖明, 澤柿教伸, 庄山紀久子, 福井幸太郎, 的場澄人, 古澤拓郎

Fieldnet and GIS: Sharing academic information for field scientists

**Wakana Shiino, Daichi Ishimori, Takeo Onishi, Gaku Kajimaru,
Osuke Komazawa, Yasuhisa Kondo, Yasuaki Sato, Takanobu Sawagaki,
Kikuko Shoyama, Kotaro Fukui, Sumito Matoba, and Takuro Furusawa**

Abstract: Field science, or fieldwork-based scientific approach, includes geography, environmental studies, ecology, anthropology, sociology, and archaeology, for example. Recent interdisciplinary research projects have gradually merged the boundary between natural and cultural sciences. Thus, for such an interdisciplinary fieldwork, the field scientists need learn the methodologies and protocols of other fields of research. In order to enable this, Fieldnet, a social network for the Japanese field scientists was established in 2007. This paper reports the activities of the Fieldnet, including GPS tutorials, and discusses a possibility that GIS will become a common infrastructure for the field scientists to handle and share field data with other researchers in the near future.

Keywords: フィールドサイエンス (field science) , ソーシャルネットワーキング (social networking)

1. はじめに

フィールドワーク (臨地調査) を研究対象への主たるアプローチとする学術領域, すなわちフィールドサイエンスとしては, 地理学・環境学・生態学・人類学・社会学・考古学などを挙げることができる。自然科学に立脚する分野から, 人文・社会科学に軸足を置く分野まで, 実に多様である。しかし昨今は,

学際連携が進み, 上記の分野名を見ても, どれが「理系」の学問で, どれが「文系」の学問にあたるか, 区別が付きづらくなっている。同様に, 昨今の学際研究プロジェクトでは異なる分野の研究者が共同で調査を行うこともある。そのため, フィールドワークを行う研究者, すなわちフィールドワーカーには今, 調査手法や現地情報を他分野のフィールドワーカーと共有する姿勢が求められつつある。

このような問題意識から, フィールドサイエンスに携わる研究者有志が集い, Fieldnet というソーシャルネットワークの構築を進めている。本稿ではそ

椎野若菜 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
フィールドサイエンス研究企画センター
Phone: 042-330-5618
E-mail: wakana@aa.tufs.ac.jp

の取り組みを紹介するとともに、地理情報システム（GIS）がフィールドサイエンスにどのように寄与するか議論する。

2. Fieldnet のあらまし

Fieldnet は、フィールドワーカーが研究地域や分野、所属の垣根をこえて、互いの知、すなわちフィールドと研究に関する知識・経験を共有し、他分野の視点・意見を交えて学際的に議論することを通じて、新たな知を構築し、新しいフィールドサイエンスの地平を開くことをねらいとする（椎野 2010）。

運営体制としては、2007 年より、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドサイエンス研究企画センターの事業として活動している。しかし、さまざまな分野のフィールドワーカーが集まってこそ、新たな交流・展開が生まれるという見地から、学外からも人類生態学・雪氷学など多彩な分野の研究者が運営委員として参画している。

Fieldnet の活動は、オンラインのソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）とオフラインのワークショップを二つの頭とする「ウロボロスの環」に見立てることができる。すなわち、SNS に登録した研究者が、オンラインでの交流を進める中でオフラインのワークショップに参加し、さらに交流を深める、という循環で、ソーシャルネットワークの形成を図っていく。

3. Fieldnet SNS

Fieldnet では 2011 年 5 月に第二世代のソーシャルネットワークワーキングサービス「Fieldnet SNS」を導入した。旧システムは MediaWiki をベースとしていたが、Wiki の記法が未経験者にとってなじみにくいものであったため、情報の蓄積が運営側の思惑通りに進まなかった。そこで新システムは、mixi のクローンとして開発されたオープンソースの SNS であ

る OpenPNE とブログツールの WordPress をベースとして、インターネットブラウザから直感的な操作によって記事を編集できるようにした（図-1・2）。



図-1 Fieldnet SNS (http://fieldnet.aacore.jp/)



図-2 Fieldnet SNS 個人プロフィール画面

Fieldnet SNS の特徴は、フィールドワーカーの学術ネットワーク形成という目的に最適化する形で SNS の機能を設計した点にある。SNS は mixi と同様に、個人のプロフィールページと、特定のトピックに関心をもつ個人の集合体であるコミュニティのページからなる。個人アカウントを初期登録する際に、専門分野とともに研究対象国（日本にあっては地方）を指定することにより、国（地方）ごとの

コミュニティに自動加入する仕組みになっている。国別コミュニティには旅行情報・医療情報・通信事情・調査許可の取得方法・図書館・機材の輸出入などフィールドワークに有用な情報が掲載されており、コミュニティに属するメンバーが自由に加筆・更新することができる。また、専門分野や研究テーマごとにコミュニティを立ち上げることもできる。

Fieldnet SNS には、2011 年 8 月 16 日現在、519 人の研究者・大学院生が登録しており、登録者数は微増の傾向が続いている。文部科学省の科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」の分野別にみると、内訳は人文学 (353 人)・複合新領域 (243 人)・社会科学 (138 人)・生物学 (96 人)・総合領域 (58 人)・農学 (43 人)・数物系科学 (31 人) の順となる。1 人が複数の分野を選択できるので、内訳の総和は必ずしも登録者数と一致しない。分野細目の内訳では、人文学—文化人類学 (235 人) が最も多く、複合新領域—地域研究 (156 人) がこれに次ぐ。これらの分野からの参加人数が多い理由としては、発起人の専門分野であることから、入会勧誘が早い段階から行き届いたことが挙げられる。分野間の偏りを解消するため、生態学会・地球惑星科学連合など理学系学会でのブース出展・広報に取り組んでいる。

4. ワークショップ

Fieldnet ではこれまでにオフラインのワークショップ・合宿を計 10 回開催した (表-1)。このうち GIS と密接に関係する GPS のワークショップを計 3 回開いたことが特筆される。これは、文化人類学など、それまでこのような技術を使う事が無かった分野においても、位置情報・地理情報の重要性が高まってきたことを受けて企画された。高度な空間解析を目指すのではなく、フィールドワークに手軽に取り入れることができるような手法を、簡易な無償ソフトや、安価な GPS を用いて、実践形式で行な

った。参加者の間では、ワークショップ終了後もディスカッションがあり、新しい研究のきっかけとなる場合もあった。

表-1 Fieldnet ワークショップの開催実績

2009.7.3	GPS をつかって地図をつくろう！～文系のための GPS 超初心者講座
2009.10.19	文系のための GPS 超初心者講座 第 2 回 / GIS は人類学にどう役立てられるか
2010.1.30-31	Fieldnet 合宿 (長崎大学)
2010.4.24	Wiki をマスターして、Fieldnet に情報を蓄積しよう！論理的な論文をかこう！
2010.7.18	フィールド映像を自分ですてきに撮影・編集しよう！
2010.10.16	家系図ソフト「アライアンス」を使いこなそう！
2010.12.4	GPS をつかって地図をつくろう！～文系のための GPS 超初心者講座 第 3 回
2011.1.27-29	Fieldnet 合宿 (白川郷)
2011.2.5	墓場で / から繋がる - 墓石をめぐる学際的研究の可能性
2011.8.1	写真術を学ぼう～静物編
2011.11.19	写真術を学ぼう～フィールド編



図-3 GPS ワークショップの様子

5. Fieldnet と GIS

GPS で取得したウェイポイントやトラックログをコンピュータ画面に表示する際には、GIS を使うことになる。したがって、簡易 GPS がフィールドワークに普及しつつある昨今、GIS は研究データ統合のプラットフォームとして、フィールドワーカー必携のツールとなりつつある。さらに、多分野連携におけるデータ統合、すなわちフィールド知統合の基盤としても、活用が期待される。実際、ワークショップでも、GIS をより深く学びたいという希望が出された。しかし GIS は独習が難しく、それが参入障壁になっている感は否めない。そこで Fieldnet では、フィールドワーカーのための GPS および GIS の使い方を書籍にまとめた（古澤ほか編 2011）。この中では、Google Earth、カシミール 3D とオープンソース GIS である Quantum GIS および MapWindows GIS、商用の ArcGIS や ERDAS IMAGINE の操作方法を、フィールドワークおよびデータ整理に必要な機能に焦点をあてて平易に解説するとともに、人類生態学・水文学・文化人類学・考古学を中心に、実際の調査における活用事例も提示している。各分野における GPS・GIS 活用の長所を学び合う効果が期待される（本号「人文フィールド GIS の現在・未来」セッション講演論文を参照）。



図-4 Fieldnet SNS の国別登録者情報画面

Fieldnet SNS にも GIS 機能が実装されている（図-4）。国別検索画面に Google Map が埋め込まれており、国（日本にあつては地方）のピンをクリックすると、そこを対象地域とする研究者のリストが表示され、個人プロフィールに遷移することができる。

6. おわりに

本稿では、フィールドワーカーのソーシャルネットワーク「Fieldnet」の SNS と GPS ワークショップの取り組みを紹介するとともに、GIS を研究基盤とするフィールド知統合の展望を示した。Fieldnet では、異分野の研究者との交流から、新しい研究展開が生まれることを期待しているが、そのためには、理工系をはじめ、さらに多様なバックグラウンドをもつ研究者の参加を仰ぐ必要である。新規入会は <http://fieldnet.aacore.jp/> から随時受け付けているので、関心をもたれた方はぜひこの機会に参加していただきたい。

参考文献

- 椎野若菜（2010）：フィールドワーカーのためのネットワーク Fieldnet へようこそ！*Field+*, 4, 24-27.
古澤拓郎・大西健夫・近藤康久編（2011）：『フィールドワーカーのための GPS・GIS 入門』古今書院。